休刊　大祭日　第一　第三日曜
定價　一部二錢　一ヶ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　[illegible]
發行所　磐城新聞社

寄稿　無駄書□□

沐雨莊雪呼

△島田春夫君に呈す

島田君、君は過日本欄に映畫「何が彼女を」「この母を見よ」の短評を發表せられたね、鈴木重吉氏は[illegible]長の比でない、言明された其の發蹤は〳〵ゐすとして今回「何が彼女を」「この母を見よ」の兩映畫に接することを得たが、僕の感想としては決して鈴木氏の手腕の平凡で類の一たと思はれる兩映畫の内容の質なると共に兩監督の個作法を異にしてゐるので同一視する事は難けれど、上映期間のコードを破れよ映畫を作れる鈴木氏の手腕を賞揚し盡く次第である。

僕は批評家では無い故、映畫に關しては批評も細かくない、僕は公平な立場より見て島田君に尊重せよと叫ぶ、人には相當の態度と云ふものがあるその人の職務その境遇によつてこと〳〵く異なつていることは云ふまでもない、若しその職務に反した態度を取れば世人の反感をまねくことは火を見るより明かである、例へば警察官が警官的態度を捨て町民の如く頭を低くして要務をとらばその結果は嘸、人が自分の境遇を忘れ高官の如き態度をもつて客に接したなら？

島田君よ、僕が君に注告する點は此處である、失禮であるが君はまだ世間見ずの田舍文人に過ぎない、文章の内容も薄弱であるか如がしてゐないのだ、その田舍文人が堂々たる會社にて専門的、映畫を製作しつゝある監督に畑違ひの君が批評を加へることは、一般の人が政府の仕事に云々と評するが如く他の反感を買ふにすぎないのである。

島田君よ磐城文壇に飛躍せんとするならば畑違ひの評論を創作する暇に、自己の詩的向上と創作に力めん事などを注意して置く。

△此の稿を詩南社同人に呈す

こゝ數年來南翁能社を脱して雜誌詩南車の刊行しつゝあることを祈す、

僕は詩南車が刊行される度に本屋に駈け付け僅かな金を投じて買つて來る、然し詩南車を深く愛讀してゐる譯ではない、只懷かしい磐城文壇より刊行されるので今度こそはどの程度まで進歩せしやを見んがためなのである。

然し詩南車はいつも私に失望をあたへるのだその原因は左の三項による。

第一、本の形狀及編輯法の改良

從來詩南車の形が大きすぎた、あれでは保存に不自由でありかつ破損し易い、此の五月號には形を縮めたことに好意を持つこの形を何時までも續けてもらいたい、次は紙の質であるがこれも良すぎる感がある、形を縮少し紙質をもつと落しても頁數を増すことを、小泉貢氏が本誌の同人時代に宣言したことがあつたこの頁數を増すには同人を増加し或は原稿の増募を計ることも悪くはなければ、詩、和歌、俗謡の欄を整頓すれば現在のまゝにても可成りの頁數の増加を見ることが出來る

第二、同人制度の改革

同人制度の改革に就ては僕の意見が多いので此處には記載せぬが、株式組織が最も安全であり最も發展するに近途であると信ず。

第三、創作品、同人の向上

詩南車の作品に、作品が少ない、血氣盛んな青年の作品として活氣がなさすぎる。

これは決して罵言ではない、若草の作品と比べて見ればおきらかに[illegible]作、戯曲、詩等々只甘たる文章が並べてあるにすぎず、磐城文壇を代表する誌として貧弱である、何處へ出しても恥かしくないことを望む、詩南社の人々よ、この書を讀みて腹が立てる前に反省して愛誌の向上を計られよ。

恐筆を以て貴重なる本欄を汚がせしことを磐城新聞社に謝罪す。（暴言多謝）

明日の吉凶

舊曆六月五日　新曆七月三十日

△一白の人　手足纏ひを生じ無駄に時刻を費すこと多し
△二黒の人　朝の内は手間どるとも追ひなれて捗るべし
△三碧の人　身を守ること堅實なれば發展の域に入るべし
△四緑の人　氣を和らげ長者を敬すれば其引立てを受く
△五黄の人　階段を昇るが如く秩序正しく徐々進むべし
△六白の人　目下のために失費あるも後日返り來るべし
△七赤の人　身体さへ健全なれば他に患ふることなき日
△八白の人　進むにも退くも氣を落付け注意に注意せよ
△九紫の人　營業には吉なれど慣れぬ事には凶と知るべし

講談　赤穂安兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光畫

（十）

斯かる歴史をもつた善光寺如來上下の尊像は一方ならず、五十里百里の先からも參詣人は澤山來る只今の言葉で云へば團体だが、是れを善光寺道者と云ふ四方八方から絲立に菅笠、草鞋穿きのものが日に幾千人入つて來るか判りませぬ、善光寺の町は道者で賑はしい其の中へ中山安太郎安之助を連れて、彼方此方と古着の店を尋ねて歩く……「伜やチト空腹になつたやうだな」……「左様でございます」……其處らで何んぞ食して參らう、あゝ彼方に蕎麥屋がある越後屋と野龍に記したは生國の名床しい心持ちを致す、彼れで蕎麥を食して參る」——「夫れが宜しうございます」——「許せよ」……「お出なさいまし何を差上げます」……「面倒でも蕎麥を二善出して呉れるやう」……「畏まりました」忽ち蕎麥を持つて來る、兩人それを食して居るところへ出前持ちと見ゆる年頃五十恰好の雇男が歸つて來た、其男が安太郎親子の姿を眤と見て居たが……「若しやお前さんは安太郎さんではないかね」……「ウム如何にも安太郎だがお前は……」聲を掛けられて安太郎その出前持ちを見たが何だか見覺えがあるやうないやうな、トンとその誰なるかを思ひ出せない……「判りませんか」……「誰であつたな」……「私は以前新發田のお屋敷に奉行して居た伊助でございますよ」……「ウム伊助だ、漸く判つた伊助誠に久方振りだつかなあ」……「ヤア待ッとくんなさい伊助〳〵と然う安く踏まれちやならない、成程以前は新發田のお屋敷に奉行してゐた、お前さんが満足の人間なら暇を取つても主家衆伊助と呼棄てられても默つて居ますが、お前さんは勘當されて今では其のざま、新發田のお屋敷に縁もゆかりもねえ事になつてゐる、お前さんに呼棄てにされるのは犬猫に面を蹴られたも同じ事だ」尻切半纒の一張羅だが伊助の勢ひは却々豪い——「何と申す犬猫に蹴斬つて乘てるは殘り多いられたも同然だとな、今一には伜の安之助大事に至つ度申して見よ」安太郎思はずはと心配して、一生懸命ず一刀を引着けた、痩ても刀の柄前を押ねて欲かせし枯れても武士は武士、弱身としてゐる、夫れ是れで扱に付込む風の神……中山〳〵には拔かれずウーム〳〵安太郎元の下僕伊助のために恥かしめられ、勘忍強い人だが一刀を引着けた時、慈ろいて帳場の中から飛び出した亭主——「コレ〳〵伊助何を云ふのだ、これは當家のお客様。出前持ちの身分としてお客様に失禮を申すとは不埒な……」「親方、まあ引込んで居てお呉んなさい、ヤア安太郎さん犬猫に面を蹴られたも同じ事さ申したのがお腹立ちか、わしア昔しつからの頑固者、良いは良い悪いは悪いと云ふのに誰に遠慮があるものかお前さん御婚禮の晩、藝者をつれて逃げなすつた跡の騒ぎといふものはどの位だか御存知かぬ、大旦那様は菅野の旦那様に申譯けない、其申譯は切腹して致すと諸肌をつくろげなすつた」……「ウーム」安太郎に於ては既に伊助を一討と覺悟した、覺悟はしたが自分は國を立退いて十有二年此頃始めてよそながら父に逢つたが、其前後知己にも新發田の人間に逢つた事が無い、勿論父は通り掛りに聲を掛けたに過ぎぬ、されば家出後の消息はえうとして知ることが出來なかつた知らんと欲しても國表の人に面を合はすが恥かしさに自ら避けて幾年月を過ぎた今伊助が家出の晩の騒ぎを語らんとす、夫れを無闇にと迂喰つて居ります」……「マア伊助奥へ引込め御浪人とは云へ二本差、若しもだい事であつては大變、何うか御浪人様御勘辨なすつて」——「ウーム」

高久病院
平町田町　電話五〇三番
醫學士　高久忠
新潟醫專出身　赤羽滑
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

磐城刀劍保存會生る
我國三千年來大和魂の眞髓武士道の精華である刀劍は其影を消さんとする傾嚮あり邦家の爲め慨歎に堪へざるため石城の愛刀家加藤丈夫、酒井國三郎、長谷川豐吉其他同好者相謀り茲に磐城刀劍保存會といふ研究と保存を目的とした團體を組織する事になつた奮つて御入會下さい。
△入會申込所　平町字二丁目　長谷川椅子店方
記
八月三日　磐城刀劍保存會組織準備會當日役員決定　於住吉屋本店
九月　磐城刀劍大會を開催　當日は夫々刀劍持寄批評研究をなす　平町住吉屋本店に於て
當日は東部刀劍の大家本阿彌光遜氏來平講演
發起人一同

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　専門　内科部
花柳　淋病　婦人病　皮膚病　専門　外科部
松村胃腸花柳科醫院（平南町電話一〇七一番）

X光線　外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田外科醫院
電話一二九
病室完備

トンボ印ニツポンレコード
電氣吹込　七吋盤小供レコード發賣
唱歌　小馬　舌切雀
同　日の丸　金太郎
同　汽車　私の學校
同　村祭　田植
童謠　赤い汽車　角兵衛獅子
各三枚一組デー圓均一
御電話下されば早速お届けいたします。
専賣所　大谷時計病院　平三電話十九番

木村病院
平新川町十九　電話一六四
産科　婦人科　院長　木村寅次郎
女醫　木村コウ
内臓外科　整形外科　醫學士　松永憲一
藥局　東京藥學士　萩原駿二

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅鐵　㊇釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は㊇の生命なり
實用的冷藏庫の特價提供……
㊇特長
一、安價輕便
一、安價にして輕便且つ堅牢大衆向きであり眞に臺所の寶器であります。
二、絶縁材料として優秀なる山形ルーフイングを使用してありますから氷の消費料極めて僅少で非常に經濟的であります。
三、小型冷藏庫一個の重量僅かに一貫五百匁位ですから野外携行用として又旅行用として飲食物其の他、殊に生物の保存運搬に頗る便利であります。
四、病院又は各家庭に於ける病室用として至極輕便にして重寶であります。
五、嚴寒の節には保溫器として用ひられ御飯其他日常飲食物の溫かみを長時間保つ事が出來株
㊇冷藏庫の寸法
小型　間口一尺二寸　奥行一尺　高サ九寸　定價五圓五十錢
大型　間口一尺五寸　奥行一尺二寸　高サ一尺一寸　定價七圓五十錢
釜屋商店器物部

夏向の小供洋服生地と新柄レース一寸巾から二尺巾まで澤山入荷致しました
婦人手芸材料　ハシモトヤ糸店　平町田町

専門　内科一般
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五　電話七二二番
川井内科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

三井の浴衣デー
今年好評な品をうづ高く積んで！皆々様の御來店をお待して居ります！

婦人倶樂部浴衣音曲ゆかた歌集ゆかた陳列
三井呉服店

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり御一報下されば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所　電話六〇三番　五四一番

タクシーの御用命は!!!
何卒昭和タクシーへ
（料金低廉）
平驛前
電三四三（サシミ）

鮫川疏水復舊工事 愈々實測開始

廿八日縣より技手來郡

水利權は取消し

石城郡鮫川疏水の復舊工事は十數年來の懸案だがいよ／＼小柳知事の手で解決！工費三十餘萬圓を投じて明年度から二ケ年繼續で行ふことになり二十六日縣耕地課から木村技手が出張實測調査をなし二十八日から係員六名出張實測に着手したがこの工事に障害物となる水利權は片端から許可を取消すことになつたので水利權の獲得者は運命如何を案じて策動を開始し二町四ケ村の關係町村民はこれ運動を妨止して工事の促進を計るべく政界の大立物の手を借りて飛躍する等政治問題化してゐる。尚小名濱町には水道がなく井戸水を全部提供しても大型商船一隻の給水量にも足りないため町有志は研究を續けて來たが別項の如く鮫川疏水復舊工事がいよ／＼實現することにならうからかん漑を待つて疏水路に取入口を設けて上水道を敷設し波止場まで水管を延ばして商船に直接給水出來る施設をすることになつた

老母殺し 嫌疑者二名 平署に召喚

石城郡錦村の老婆殺し嫌疑者として植田署では二十八日植田某佐藤某二名を引致し嚴重取調中

鹿島村が一致して 道路の愛護

道路愛護會を組織

道路愛護デー以來各地に道路の改修工事に掃除などが行なはれ殊に石城郡鹿島村小學校長鵜浦氏は村內の縣道里道凡ての道路面が悪いので郡下に先んじ全校兒童をして路面の改修に從事したところがこれを見てゐも[illegible]なくなつたのが同村村長さんと助役さん消防組頭幹部軍人分會長を始め青年團長等は小供までがあんなに社會的事業をするなら大人もやるんだと多數同志の賛同を求め出來上つたのが鹿島村聯合道路愛護會でこの道路愛護會の事業としては毎月一回村內總動員で路面の改修に從事するのである小供までが萬能シャベル等を持つて大人同様に協助する定例事業を行つた平土木監督小林所長もこの事業に深く情謝し自ら出張視察をなし石城の道路も鹿島の如きものがあれば縣下第一の無路面が第一の優秀道路になると語つてゐた

四倉海水浴 自動車の營業主が 乘客に暴行

平町白銀町六機械商伊藤昇(三八)外六名は二十七日四倉に海水浴に行き同日午後四時頃歸途中町南町芹澤自動車屋の乘合車を一圓五十錢で貸切つたところ運轉手は都合があるからと一臺に五名他の二名は別の車へ乘せて平町についたので昇は自分等が乘つた五名の料金一圓を置いて立去らんとしたところ營業主の芹澤正忠(三五)は昇の襟を摑んで料金を置いて行けと引つ張り着衣を破いたと言ふて烈火の如くなつて平署へ訴へ出た。同署で双方取調中であるが自動車の營業競争から運轉手が料金を引下げてたきながら營業主が斯うした態度に出るでないかと思はれるものがあるので時節柄徹底的に取調べる事になつた

國勢調査委員 平町で三十九名 卅日役場で任命

平町の國勢調査委員として內閣より三十九名補缺八名任命され卅日平町役場會議室に於て會田[illegible]平し辭令傳達式を擧行する由で任命者左の如し

植頭鶴松、小野國次郎、佐々木節次郎、山崎清三、馬目玉彌、佐藤作平、平澤勝次郎、佐藤榮一、渡邊貫一、山崎孝之助、梅原利三郎、松本愛三、平松武、長谷次郎、長瀬富彌、鈴木要七、酒井政之助、齋藤寅吉、水津宗次郎、青木秀次、會川延太郎、叶多銘次、鈴木良平、大島福太郎、若松八右エ門、吉田鎭政、佐藤次郎、中野伊重、岡田仙藏、佐藤榮吉、三森清重、吉田喜代治、廣木榮之助、掘彦一、石井重太郎、伊藤甫喜、鈴木廣成、鍋田三重、佐藤源五郎、(以下補缺)酒井寅之助、遠藤五三二郎、花澤文庫、佐藤伊太郎、西野源次郎、鈴木丑松、松本新次郎、渡邊太次郎、

寡婦 姙娠を恥じ 家出長男平署に捜査願ひ

石城郡飯野村大字北白土田野邊ナオエ(四〇)は五歳になる三女光子を連れて廿八日午後四時頃突然家出したので若松聯隊へ入營中の長男定一より平署へ捜査方願ひ出た原因はナオエは三年前夫に死に別れ獨身生活を續けて居たが最近附近の男と關係し姙娠三ヶ月の身を恥じて家出したものらしいと

夏井村の 幼女溺死 川中に轉落して

石城郡夏井村大字荒田目字中荒田目新粟器二女品子(二)は廿八日午後二時頃兒弟四人に連れられて夏井川へ水泳に行つて砂地へ遊びして居いた處誤つて水中に轉落したのを知らずに居つが遊び疲れていざ歸らうがしたら品子が居ないので大騷ぎとなつて捜査中であつた處四時頃三百間の下流六十枚橋附近で死体となつて

三井礦の出水に鑑み 各炭礦が警戒

數十本のボーリングを下し

各礦が水脈調査

石城郡磐崎村藤原三井炭礦に於ける坑內出水に鑑み隣合つてゐる入山、磐城の大炭礦はこの不況に例令少ない水にしても出水禍に見舞はれてはそれこそ大變と探炭個所へ坑內ボーリングを卸して水脈を探つてゐるが現在の所で藤原坑の水脈と極めて接近してゐるのは磐城炭礦の綴坑であるので同坑は近く坑內に數十本のボーリングを卸して水脈を探り出水を未然に防止することとなつた

石城町村長會

卅一日午前十時から平町關係事務所樓上で總會を開き國產品愛用その他に關する協議をなす

土用入後の 天候順調で 石城農家豐年萬作

灌漑水に不足を來さなかつたので土用入り後の天候が比較的順調である關係から石城地方の稲作は目下のところ近年稀な豐作を豫想されてゐるが、同地方の古老の言によると雷の非常に多い年は稲の發育は極めてよく又その年に限つて洪水も尠ないので豐作だといふことだが今年は石城地方は毎日の如く雷がある甚だしい時は日に何回も雷を聞くので農家の人々は滿作疑ひなしと喜んでゐる

國調事務 訓練會 石城の日割

十月一日施行の國勢調査に對し各郡統計協會では調査員の事務取扱ひ訓練會を開催するが開催地決定の分左の如し

△石城郡八月一日赤井△二日永戸△三日四倉△四日湯本△五日小名濱△六日平第三△七日同△八日植田△十日入遠野

磐崎村で 村會召集 三井礦の出水に關し協議

石城郡磐崎村では廿八日午後四時より同村役場に於て村會を開き藤原炭礦出水問題に關し種々協議を遂げた

暑熱のため 傳染病 流行

平町七丁目高橋隆男(二)は廿五日ヂフテリヤと南町鈴木カン(三七)は廿八日パラチフスと判明隔離されたが平役場では此の二、三日急激に傳染者が續出するので早速注意書を作成し各區長に對し注意を促し豫防に努める事となつた

磐中選手出發

磐城中學校庭球部選手六名は盛岡に開催せらるる東北庭球大會に出席の爲め二十九日午後五時廿分發で必勝を期し盛岡に向つた

俸給の削減を 好間村で決議

村議三割、吏員八歩減

郡下に魁けして

石城郡好間村では去る廿日村會を召集し左記事項を可決し八月一日より實行する事となつた

一、村會議員の報酬の三割減

二、役場吏員は村長以下各吏員の報酬の八歩減

三、役場吏員一名を減員すること

暑熱が加はり 平町氷屋繁昌

衛生保健のため

平署から嚴達

石城郡地方は愈々ほんもの、夏が訪れ昨今の暑さつたらお話にならない從つて氷屋の繁昌も素晴らしいものである平署では「氷のごまかし販賣はまかりならぬぞ」ときつい布令を廻して居るが無届で朦朧氷水店も最近こそ／＼と現われて居るらしいので平署では嚴重に取調る事になつた殊に燒芋屋、駄菓子屋、しるこ屋、ちも屋等この時ばかりと氷水屋に早變りしたものが管內だけでも三百七十餘軒に達して居るが本郡全体では大した數に上るであらう、之等の店は一々檢査を受けるがそれでもその設備の不完全で中にはコップも碌に洗はないで忙しい／＼とごま化してゐる不屆な者もある從つて種々恐ろしい傳染病菌が混入し易い毎年の例に依ると夏季傳染病中氷水の不潔から罹病するものが其の大半を占めてゐるのに鑑み保健上捨て措き難しとあつて近く平署では獨り氷水屋のみならずアイス屋其の他飲食店の一齊調査をなし以つて嚴重に清潔を保たしめる事となつた

◎植田の置屋も國產奬勵に共鳴した譯でもあるまいが湧たれや寢小便のヘナチョコを集めて、藝を仕込むよりになつたのは善い、猿だづて藝を覺へて芝居をやつてるもの、況んやに於てをやだ◎そして藝者の數を殖して本當「花の植田」とすることだね、同時だつたか放送にかけた平ダースばかりの藝者の中に國民軍のオカミまで出しや張つて植田には藝者が居ないかと仙臺の笑ひものになつたそうだ◎これも藝者の貧弱から起つたことだらう、これでは「花の植田」でなくて「恥の植田」だ、恥は千代名は末代と昔の人はうまいことを言つてる。

日常生活の合理化運動(一)

不景氣對策は大體二つに分類される、その一つは經濟的事情の改善による狀態開の方法例へば、政策更改によつて經濟的事情を好轉せしめるとか、減稅を斷行して國民の負擔輕減を圖るとか產業合理化、事業統制、國產品獎勵等により商品の大量生產、價格の低下を圖り購買力を增進せしめる一方、貿易の逆潮を防止するとか、或ひはまた新規事業を起して失業者を就職せしめるかといふ方法がそれで一言にして云ふならば積極的對策である。

今一つは、個々の營業又は家庭に就いてその經營の合理化技術的改善、或ひは消費の整理等を行ひ、不況時の收支バランスを及ぶ限り合はしてゆく方法であつて、一口に言へば消極的對策である。而して、前者は政府とか事業團體とかの手による仕事で、後者は個人のやる仕事である。この兩者が兩々相俟つて善後の方策を講ずるならば、不景氣は不景氣なりに、經濟界の歩みも常軌を逸せず、國民生活の脅威も比較的緩慢である、英、米あたりの不景氣は相當深刻ではあるが、割合に人心の悪化を見ないのは、要するに不景氣對策が曲りなりにも軌道を歩んでゐた爲めだといふ事が出來る。

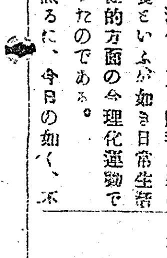
然るに、現內閣の不景氣對策金解禁の善後策といふものは、政府として先づ第一に着手すべき產業合理化や失業者救濟或ひは國民の負擔輕減とかいふ仕事を後廻しにして個人のなすべき消費の節約を眞つ先に政府として大々的に宣傳且つ實行に努めた。其處に根本的な錯誤がある。

結果に云はずして明かである產業の發達は實に消費力の如何によつて左右されるのが普通だから、消費を節約すれば直ちに購買力の激減となり、それが生產事業の底知れない壓力となつて、產品過剩事業不振、中小業者の沒落、失業者の累積的增加其他の諸現象が次々と現はれ、而もそれが循環關係を形成して、不景氣は更に／＼深刻化してゆくつまり政府は不景氣助成策を不景氣對策金解禁對策として實行してゐるのだから何時まで立つても、不景氣は回復しない所かます／＼惡化せしめるといふことになる、そこに現在の經濟諸事情の行詰りがあるのだ。

日常生活の合理化とはいふまでもなく消費經濟の問題であるつまり、如何にして生活費の無駄を除くべきか、いかにして生活樣式を經濟化すべきかといふことの研究である。

日常生活の合理化問題は今に始まつた事でない生活改善といふ名目の下に早くから一部先覺者によつて唱導されまた實行されて來た事である。たゞ注目すべきは從來の生活改善運動は主として生活樣式の改善といふ事が主になつてゐた。即ち、服裝の簡易化、住居の改善、虛禮廢止、冠婚葬祭の經濟化、又は貯蓄思想の涵養といふが如き日常生活の從的方面の合理化運動であつたのである。

然るに、今日の如く、不景氣が一種の社會不安を釀成する程度に深刻化して來た時代には、さうした方面の冗費節約丈では收支の辻褄を合はして行けない收入減から來る家庭經濟の逼迫は如何に生活を餘裕あらしめるかよりも如何にして、最低限度の生活を持續して行くべきかゞ當面の目的となつて來る故に今日の場合の生活合理化は、商品への認識が異にした嚴密なる檢討と生活の科學的經營を主眼としたものでなければならない。



平町で 湯札値下 八月一日より實施

平町湯屋營業組合では荒井署長の懇談に基き現在の湯錢四錢はそのまゝとして湯札三枚十錢に値下げ八月一日から實行することに協議まとまり廿九日午後二時平署で組合總會を開き右決議する筈

澤渡村の 齒入屋 郡山に捨子

石城郡澤渡村大字上市萱下駄の齒入れ佐藤貞治(四四)は

平、小名濱間 自動車 運轉許可

平町より鹿島村を通つて小名濱町に通ずる縣道の自動車運轉許可は平町鈴木辰三郎氏外十餘名から競願されてゐたが二十八日先願の鈴木辰三郎、野崎滿藏の兩氏に許可され平署の經由の上指令を發せられた同縣道は平、小名濱間の唯一の直通道路で非常に便利とされてゐる

平町人事

△死亡

平町禰宜町十一栃木縣那須郡金田村中西原一二八一井上ツネ(一)

平町大工町十三東京府荏原郡目黒町千三百四十九土木業鈴木茜作(六三)

平町八幡小路七八鍋田和子(五)

平町紺屋町五四草野ツメ(三七)

平町田町三神谷村藤田岸六一富男長女金成時(二)

平町揚槌小路二四鷲谷アサ(三)

平町田町四金成トキ(二)

◎コークス大々的値下斷行……

從來一俵金壹圓貳拾錢ノ東京瓦斯コークスヲ金九十五錢ニ値下致シマシタ

一家ノ經濟ハ臺所カラ

◎使ヘ馴レ、バコークス程經濟ナモノハアリマセン

◎使用法ハ參上御說明申上マス

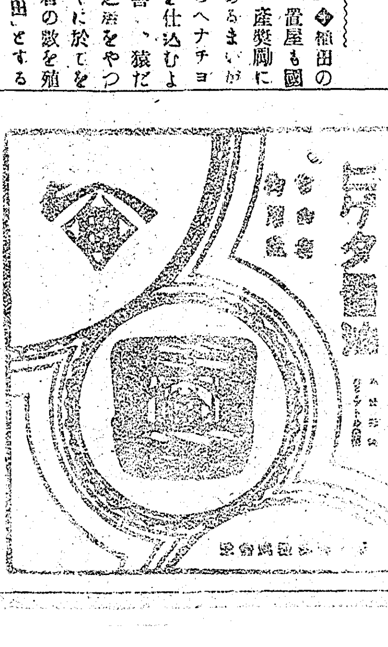
配達迅速御注文ハ一俵ヨリ御屆ケ致シマス

昭和五年七月一日

電話二二七番

平驛前

阿部石炭商店



特約店 平町田町 廣瀬支店 電話五四番

營業種目

內地材 材木各種、別柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負

外材部 米松、米杉、大角製材調達 其他請負

佐藤材本店 常磐線平町新川町 電話三三五番

一圓十錢 フランス マルソー會社元詰 マルソー、ブランク マルソー、ルージ 生葡萄酒

優良にして安價賣行き飛ぶが如し

平二 西村屋藥舖 電話三番